

2013年夏季賞与の見通し

— 一人当たり支給額が3年ぶりのプラスへ —

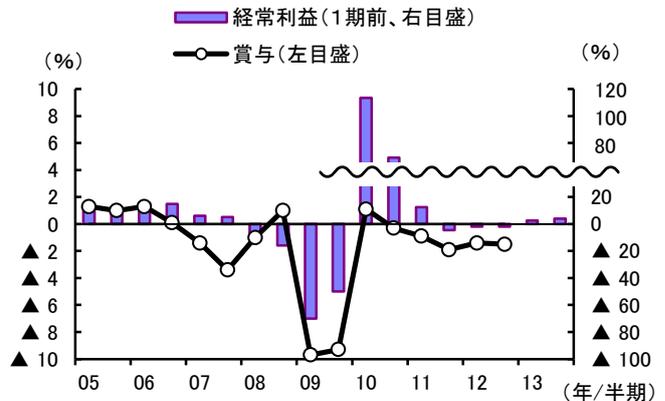
- (1) 今夏の賞与を展望すると民間企業の一人当たり支給額は前年比+0.4%と夏季賞与としては3年ぶりのプラスに転じる見込み(図表1)。
(*)厚生労働省「毎月勤労統計」事業所規模5人以上ベース。
- (2) 背景には、円高修正の動きなどを受けた2012年度下期の企業収益の持ち直し(図表2)。加えて、政府による賃上げ要請、個人の購買力強化をめざす小売企業等の賃金戦略の変化が賞与押し上げに作用。もともと、内外需ともに緩やかな回復にとどまるなかで、収益改善による賞与引き上げ余力には、産業・企業によるばらつきが大きく、全体としての改善幅は小幅。このため賞与水準は、引き続きリーマンショック前の2008年を1割以上下回る水準にとどまる見込み(図表3)。
- (3) 支給総額は、+2.6%の増加となる見込み(図表3)。一人当たり支給額の増加に加え、支給対象者が、景気の回復傾向を受けて増加する見込み。
- (4) 国家公務員は、+2.9%の増加となる見込み。①2012年度夏季賞与において、2011年度の人事院勧告の引き下げ分がまとめて調整されたマイナス効果の剥落、②平均年齢の上昇などによる平均給与月額増加、が押し上げに作用。

(図表1) 2013年夏季賞与(一人当たり)の見通し

	民間企業			国家公務員
		製造業	非製造業	
2011年末(実績)	▲ 1.9	3.7	▲ 3.2	4.1
2012年夏季(実績)	▲ 1.4	▲ 3.1	▲ 1.0	▲ 9.2
2012年末(実績)	▲ 1.5	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 8.4
2013年夏季(予測)	0.4	0.9	0.3	2.9
支給額(万円)	36.0	47.6	33.9	52.8

(資料)厚生労働省、総務省、人事院、予測は日本総合研究所

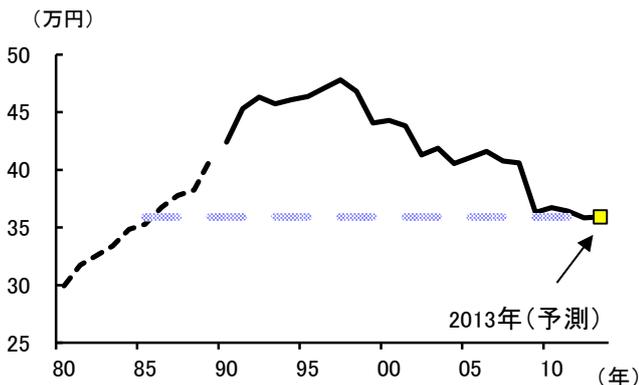
(図表2) 賞与と経常利益(前年比)



(資料)厚生労働省、日本銀行

(注)賞与は毎月勤労統計ベース。経常利益は日銀短観ベース。2012年度は実績見込値。2013年度は予測値。

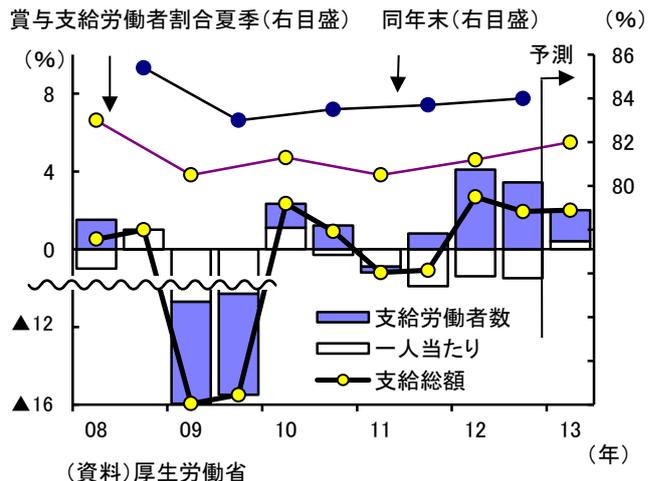
図表3 夏季賞与平均額の推移



(資料)厚生労働省

(注)事業所規模5人以上。89年以前は、同30人以上実績値からの推定値。

(図表4) 賞与支給総額(前年比)



(資料)厚生労働省